調 査 報 告

ミュージアムの情報発信に関するアンケート

Report: Questionnaire on Information Dissemination at the Museum

令和２年 10 月１日

Museum Media Labo.
株式会社 ミュージアムメディア研究所

はじめに

世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、博物館のサービス提供方法に大きな影響をもたらしました。日本全国で多くのミュージアムが休館を余儀なくされ、展覧会が中止・延期となり、その後は警戒体制のまま開館するなど、経験したことのない事態に次々と見舞われることとなりました。

展示を見せることができないという状況は、ミュージアムにとっては唯一無二の武器を奪われたにも等しい状態です。そんな未曽有の逆境にあって、全国各地で新たなサービス提供方法の模索が始まっています。中でも、来館できない人々にもミュージアムの魅力を伝える方法として、インターネットの活用が大きくクローズアップされています。

そんなタイミングで、先ごろ、『アート・ドキュメンテーション学会』の年次大会で登壇の機会をいただきました。大会自体はやはりオンラインでの実施となりましたが、発表内容は当初の予定通り、「クラウド型収蔵品管理システム< I.B.MUSEUM SaaS >のユーザ館は、インターネットをどのように活用しているのか」について報告しました。当日に先立って実施したアンケート調査では、実に 100 館を上回るミュージアムより回答をお寄せいただきましたので、こちらも事前にお知らせいたしました通り、集計・分析した報告書をここにお届けいたします。

アンケート結果からは、< I.B.MUSEUM SaaS >の導入館はデジタルの活用に積極的であること、その中でもさらなる活用に向けての障壁が存在すること、そして新型コロナウイルス感染拡大防止のために講じられた施策が今後のデジタル活用にも応用可能であることが浮き彫りとなりました。以下、弊社考察を添えた形でご報告いたしますので、ぜひ積極的な施策立案の一助としていただければ大変嬉しく存じます。

最後になりましたが、感染拡大防止対策で多忙な時期にアンケートにご協力くださいました皆様に、まずは深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

目次

1．　アンケートの概要 3
(1)　アンケートの目的と背景 3
(2)　アンケートの概要 3

2．　回答館の属性や傾向 4
(1)　アンケート対象 4
(2)　I.B.MUSEUM SaaS 導入館の特徴 5
(3)　回収率・回収数 5

3．　回答内容の詳細 6
(1)　設問・回答・解説 6
設問 1.　情報発信チャネル 6
設問 2.　新規利用の情報発信チャネル 7
設問 3.　配信コンテンツ 8
設問 4.　インターネットでの収蔵品データベースの公開 8
設問 5.　インターネットで収蔵品データベースを公開しない理由 9
設問 6.　「MAPPS Gateway」の利用経験 10
設問 7.　「MAPPS Gateway」利用目的 11
設問 8.　「MAPPS Gateway」の認知度 12
設問 9.　他館資料の検索方法 13
設問 10.　「MAPPS Gateway」への要望 14
設問 11.　IIIF 認知度 15
設問 12.　IIIF 対応の意向有無 16
設問 13.　インターネットを活用した情報発信に関する意見 17

4．　まとめ 20
(1)　母集団の特徴 20
(2)　集計結果の総括 20
(3)　「新しいミュージアムIT」の萌芽 21

各種調査データ 23
(1)　アンケート集計 23
(2)　ミュージアムの Twitter 調査（参考） 25

1. アンケートの概要

(1) アンケートの目的と背景

新型コロナウイルス感染拡大は、日本全国のミュージアムの運営に深刻な影響を及ぼしました。思わぬ形で休館を余儀なくされ、展覧会も軒並み中止・延期となりましたが、多くの館が SNS をはじめとするインターネットの利用に活路を見出し、新たなコミュニケーションを模索する動きが活発化しています。

そのさなか、弊社では、同様にオンラインでの開催となった『2020 年度 アート・ドキュメンテーション学会 年次大会』にて、ミュージアムの現状を報告する機会をいただくことになりました。デジタルアーカイブ及びオンライン活用にまつわる取り組みや試み、意識や課題について、博物館業界全体の努力を広くアピールする好機と考え、< I.B.MUSEUM SaaS >のユーザ館の皆様を対象にアンケートを実施。資料（作品）情報の発信などについての現状をうかがいました。

(2) アンケートの概要

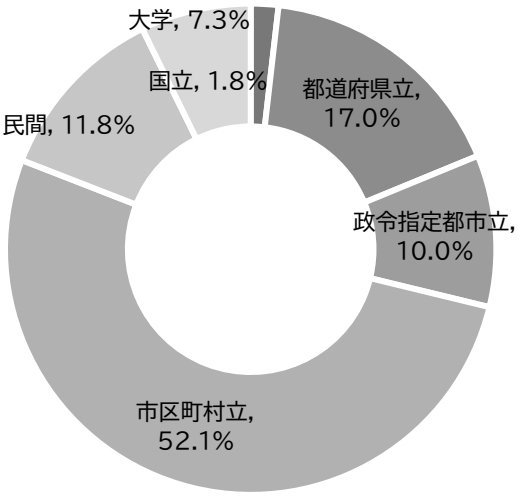
今回は、早稲田システム開発株式会社が運営するクラウド型収蔵品管理システム< I.B.MUSEUM SaaS >のご利用館を対象に、「どのようなチャネルで情報を発信しているか」「新しく始めた施策はあるか」「資料（作品）データベースを公開しているか」など計 13 の設問への回答をお願いしました。実施のお知らせと回答依頼は主にメールで行い、回答は専用のフォームを用意しました。

2. 回答館の属性や傾向

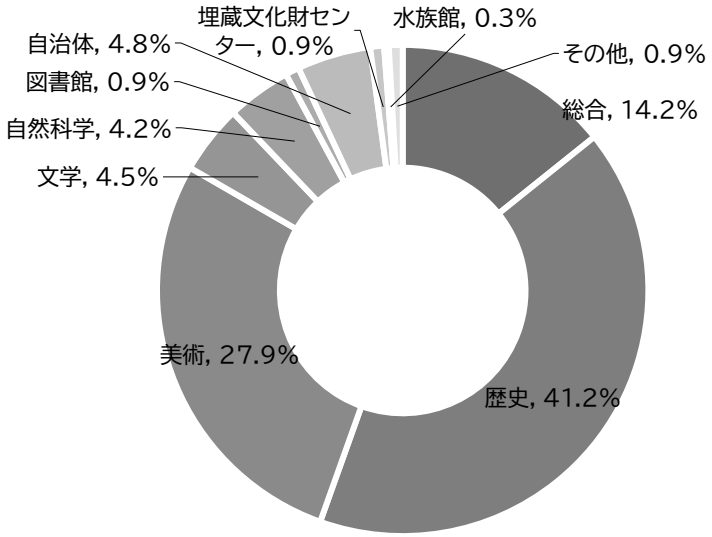
(1) アンケート対象

アンケートの対象は、< I.B.MUSEUM SaaS >の導入館です。アンケート開始日時点では 330 館、館の属性も設置母体・館種ともに多岐にわたります。

【設置母体別館数】

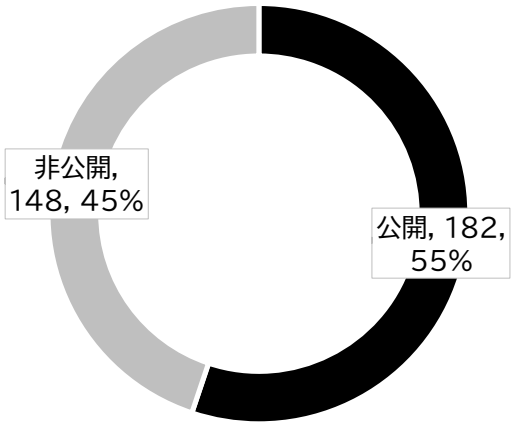


【館種別館数】

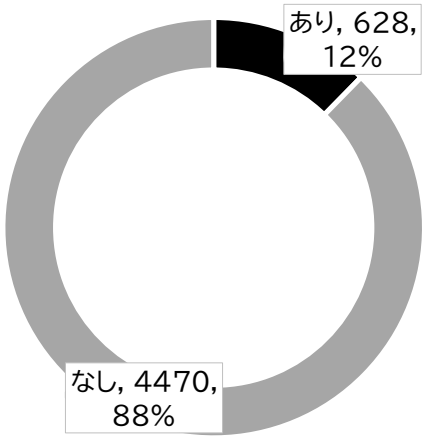


(2) I.B.MUSEUM SaaS 導入館の特徴

今回のアンケートは、主としてインターネットを活用した情報発信について尋ねるものです。そこで、収蔵品データベースをインターネットで公開しているかどうかについて事前に調べた結果、試験的に実施している館を含め、過半数となる約 55%が実施中であることがわかりました。これは、文部科学省の『社会教育調査』において「デジタルアーカイブあり」と回答した約 12%を大幅に上回るもので、参考データながら、今回のアンケート対象館は一般的なミュージアムに比べてかなり積極的な情報発信姿勢を有していることがうかがえます。



I.B..MUSEUM SaaS ユーザ
収蔵品データベースを
インターネットで公開しているか？



文部科学省社会教育調査
情報提供方法
デジタルアーカイブがあるか？

(3) 回収率・回収数

今回のアンケートでは、最終的に 112 館から回答が寄せられました。アンケートを実施したのが新型コロナウイルス禍の真っ只中で、状況が日々変化し、対策に追われていた時期であることを考慮すれば、34%という回収率は特筆できるものと存じます。大変な状況の中でご協力くださった館の皆様には、改めて深く感謝を申し上げます。

3. 回答内容の詳細

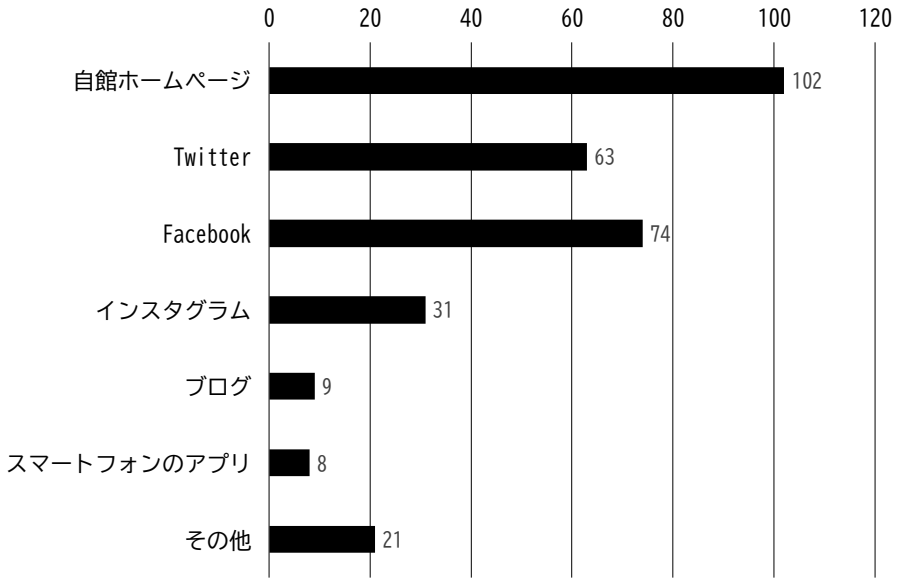
(1) 設問・回答・解説

設問1. 情報発信チャネル

インターネット上の情報発信には、どのようなチャネルをご利用ですか？（複数回答可）

- □ 自館ホームページ
- □ Twitter
- □ Facebook
- □ インスタグラム
- □ ブログ
- □ スマートフォンのアプリ
- □ その他（　　）
- □ 特にない

【回答】1



【解説】

回答館 112 館のうち、102 館が自館ホームページによる情報発信を行っていると回答しています。そのほか、『Twitter』や『Facebook』『インスタグラム』といった SNS の利用も目立ち、約8割もの館がいずれかのサービスを活用している計算になります。

自由回答形式の最終設問でも見られましたが、費用を必要としない SNS は最初の一歩を踏み出しやすいのが特徴です。株式会社コムニコの調査（https://blog.comnico.jp/we-love-social/sns-users）によると、2020 年 8 月時点の

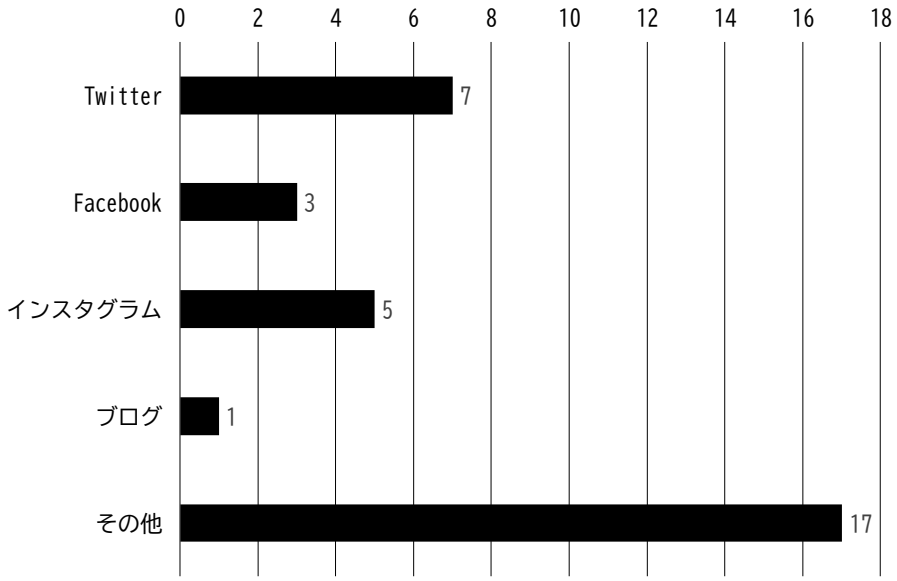
アクティブアカウント数は Twitter が約 4500 万、Facebook が約 2600 万、インスタグラムが約 3300 万とされています。今回のアンケートでは、利用中の SNS は Facebook が最も多いのですが、上記の調査によれば利用者の年齢層が比較的高めとのことですので、納得できるところ。さらに、Facebook は実名制を採用していますので、ミュージアムの情報発信窓口としては選びやすいチャネルと言えるでしょう。

設問2. 新規利用の情報発信チャネル

緊急事態宣言の発令などの影響で休館するミュージアムが増えていますが、これを受けて、インターネットを介しての情報発信が活発化しています。貴館では、今年に入って新たに始めた情報発信はありますか？（以前から利用しているチャネルは除きます。複数回答可）

- □ Twitter
- □ Facebook
- □ インスタグラム
- □ ブログ
- □ その他（　　）
- □ 特にない

【回答】2



【解説】

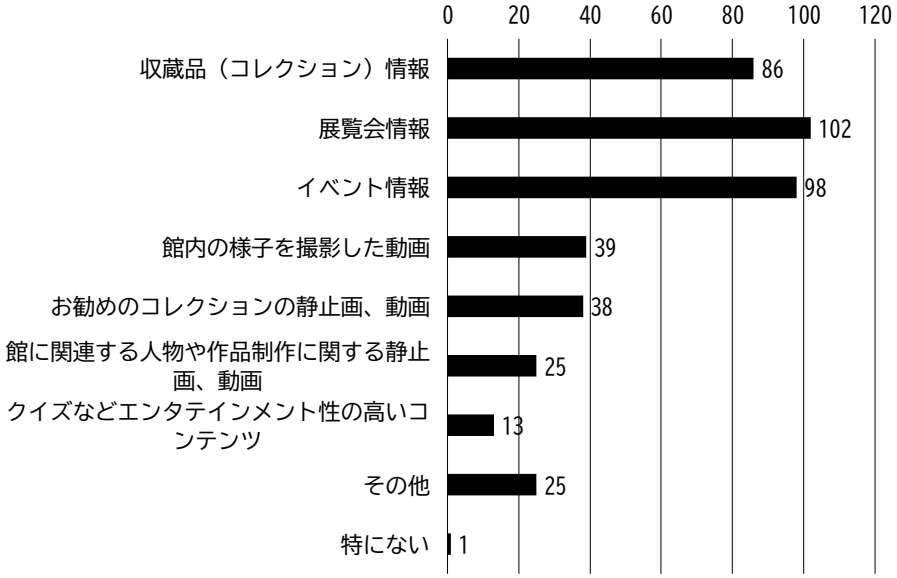
グラフからは除外していますが、「特にない」が 85 館にのぼりました。つまり、全体の約4分の1にあたる 17 館は「2020 年1月から5月の間に新しい情報発信を開始した」ことになります。その内訳が上のグラフで、『Twitter』が7館、『Facebook』が3館、『インスタグラム』が5館となっています。サンプル数が少ないものの、Facebook は「利用している SNS としてはトップである」のに対し、「新しく始めた SNS としては最も少ない」という興味深い結果となりました。

設問3.　配信コンテンツ

インターネットではどのようなコンテンツを発信していますか？（複数回答可）

- □　収蔵品（コレクション）情報
- □　展覧会情報
- □　イベント情報
- □　館内の様子を撮影した動画
- □　お勧めのコレクションの静止画、動画
- □　館に関連する人物や作品制作に関する静止画、動画
- □　クイズなどエンタテインメント性の高いコンテンツ
- □　その他（
- □　特にない

【回答】3



【解説】

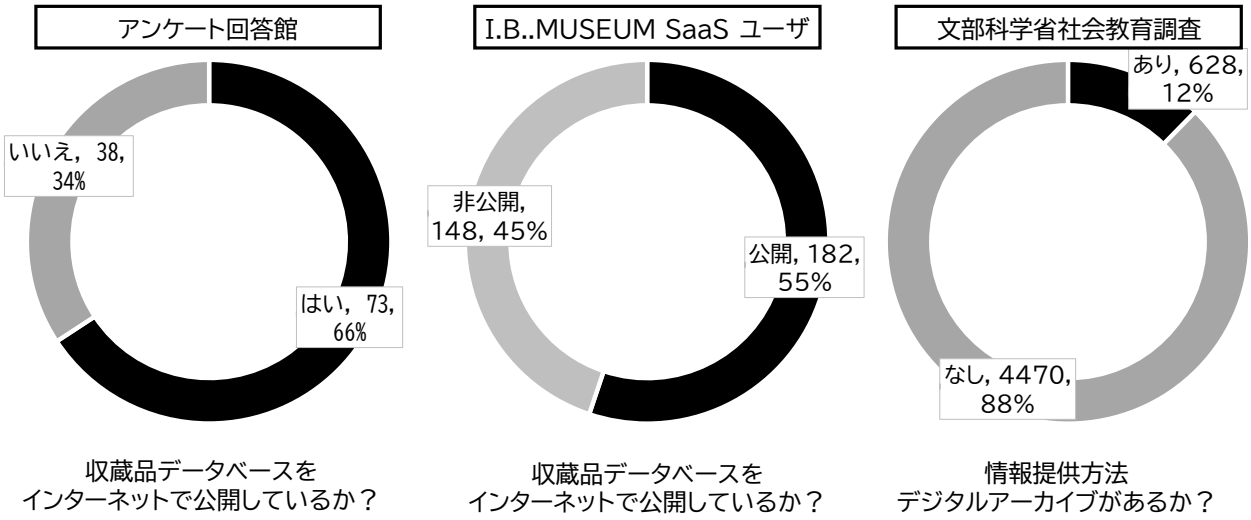
このアンケートを開始したのは、2020 年5月８日。緊急事態宣言の5月末までの延長が発表されて間もない時期で、大半の館が臨時休館となっていました。つまり、情報発信の方法や内容などについて休館中に尋ねたにも関わらず、その時点では開催されていないはずの展覧会やイベントの情報が回答の上位を占めたことになります。回答のタイミングもあってか、この時点では、アーカイブを中心とした「ストック」情報以上に展覧会やイベントなど一過性の「フロー」情報を重視すると思しき結果となりました。

設問4.　インターネットでの収蔵品データベースの公開

貴館では、I.B.MUSEUM SaaS の機能を利用して、資料（作品）データのインターネット上で公開されていますか？

- □ はい
- □ いいえ

【回答】4



【解説】

資料（作品）データベースを公開している館は、回答館のうち約 66％を占める結果となりました。前述の通り、< I.B.MUSEUM SaaS >ユーザ館全体では、公開している館が全体の約 55%ですので、回答館はユーザ全体の中でもデータ公開に積極的な層であると言えます。

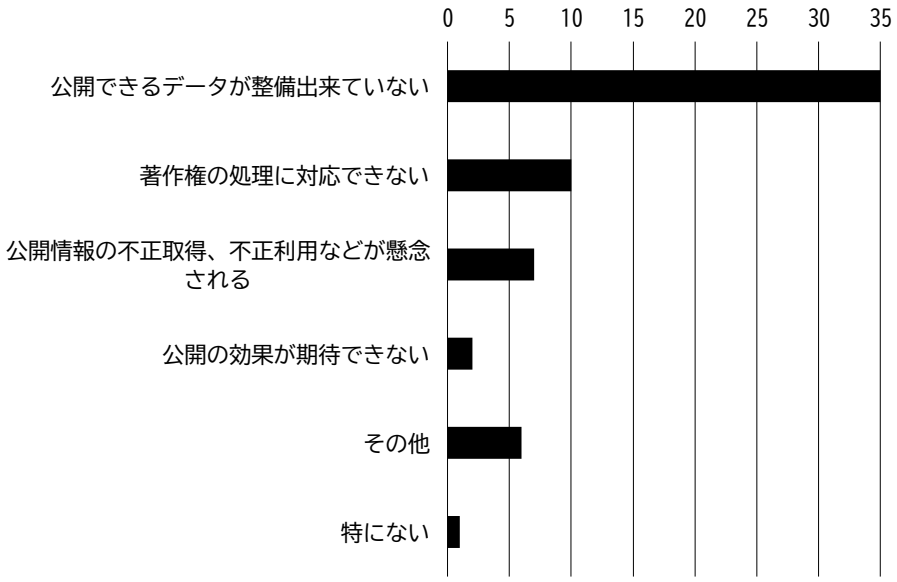
先ほどと同様に、文部科学省の『社会教育調査』と比較してみましょう。博物館、博物館類似施設の情報提供方法についての回答を集計すると、「デジタルアーカイブ」と回答した館は 2010 年度で約 8.7%、2014 年度は約 10.6%、2017 年度は約 12.3%となっています。やはり実施時期も設問も同一ではないものの、今回のアンケート回答者はデジタルアーカイブ事業に積極姿勢を有している館が多いと考えられます。

設問5. インターネットで収蔵品データベースを公開しない理由

設問4. で「いいえ」とご回答の方にお尋ねします。資料（作品）データをインターネット上で公開しないことについて、何か特定の理由はありますか？（複数回答可）

- □ 公開できるデータが整備出来ていない
- □ 著作権の処理に対応できない
- □ 公開情報の不正取得、不正利用などが懸念される
- □ 公開の効果が期待できない
- □ その他（　　）
- □ 特にない

【回答】5



【解説】

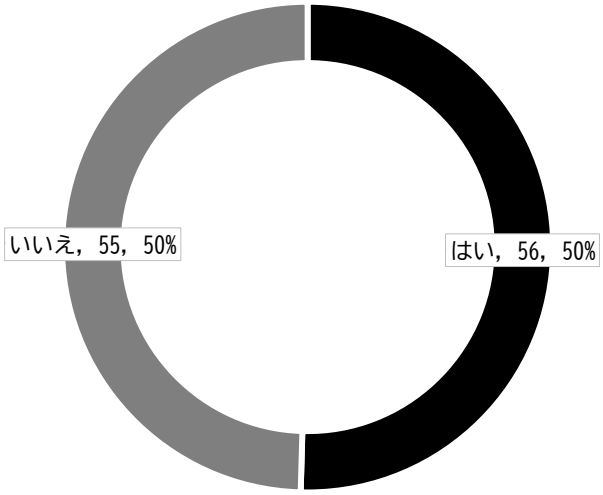
インターネットで収蔵品情報を公開するにあたっての課題は、「データの整備」が圧倒的多数を占めました。データの準備が公開できるレベルに達していないと考えている館が、回答館の3分の1を占めている計算になります。対して、権利処理や権利保護などの面で障壁ありとしている回答者はその半数ほどに留まっていますので、データ整備のための人員や体制、仕組みが整えば、収蔵品データベースの公開はさらなる進展が期待できそうです。

設問6. 「MAPPS Gateway」の利用経験

I.B.MUSEUM SaaS では、公開情報の横断検索サービス「MAPPS Gateway」を運営していますが、サイトを閲覧したことはありますか？

- □ はい
- □ いいえ

【回答】6



【解説】

＜I.B.MUSEUM SaaS ＞の公開データが自動的に横断検索の対象となる『MAPPS Gateway』については、サービスを「知っている」と回答した館が半数に留まり、残念ながら認知度からして不十分であることが浮き彫りになりました。運営側の告知不足が理由ですが、「何もしなくても出来上がっている」という自動アップデート型のクラウドサービス独特の仕組みが「知る機会」を逃す一因になっているとも考えられます。

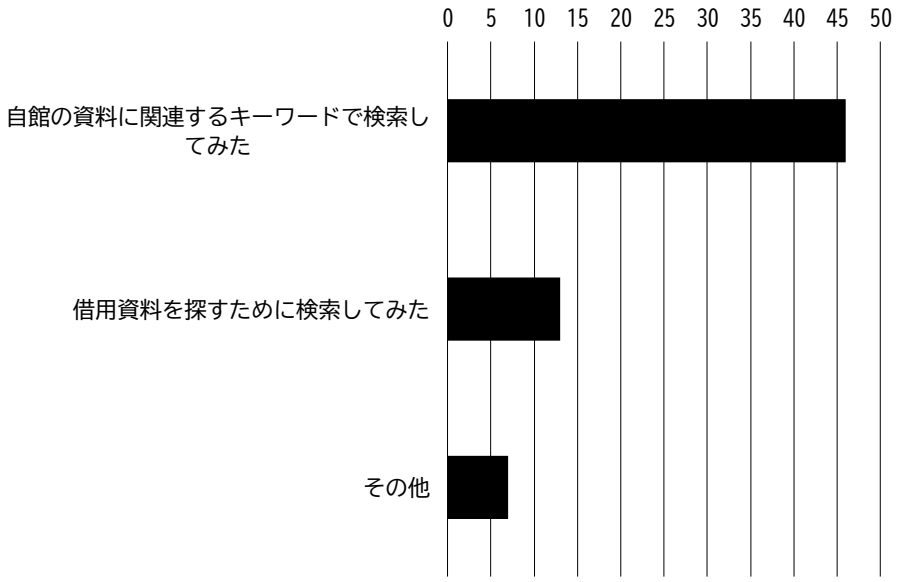
博物館収蔵品情報を横断的に検索できるサービス MAPPS Gateway では、館側が別途登録や設定を強いられるような作業負担の発生を避けるため、＜I.B.MUSEUM SaaS ＞にて開設された公開ページから情報を自動的に取得する仕様となっています。日常的なサイト運営ではまったく意識する必要がない分、そのまま「触れる機会」も減少することになるため、改めて周知徹底の必要がありそうです。

設問7. 「MAPPS Gateway」利用目的

設問6. で「はい」とご回答の方にお尋ねします。「MAPPS Gateway」をどのような目的で利用されましたか？（複数回答可）

- □ 自館の資料に関連するキーワードで検索してみた
- □ 借用資料を探すために検索してみた
- □ その他（　　）

【回答】7



【解説】

自館の資料に関連するキーワードで検索するのは、「きちんとヒットするかどうか」を確認する時以外では「他館に類似のものがあるかどうか」を知ること自体が目的でしょうか。「借用資料を探すため」という、より業務に直結した使用方法は、相対的に少数派に留まっているようです。

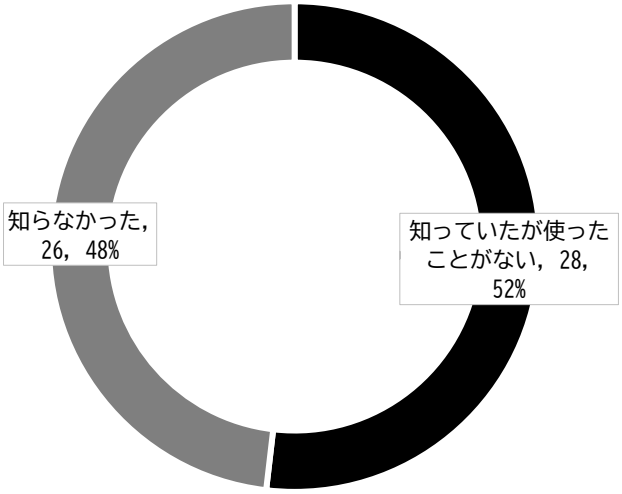
現在、『MAPPS Gateway』では 200 館以上、300 万件以上の収蔵品データが検索できますが、それでもミュージアム全体から見るとカバーしているのはごく一部に過ぎません。他館の収蔵品を本格的に調べるには、まだまだ力不足と言わざるを得ない現実が浮き彫りとなりました。

設問8. 「MAPPS Gateway」の認知度

設問6. で「いいえ」とご回答の方にお尋ねします。「MAPPS Gateway」をご存じでしたか？

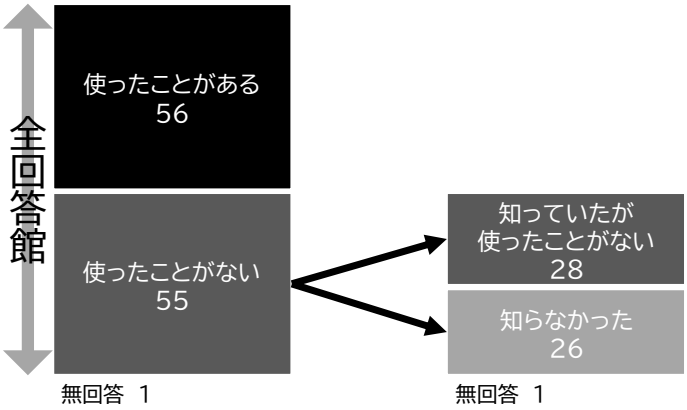
- □ 知っていたが使ったことがない
- □ 知らなかった

【回答】8



【解説】

『MAPPS Gateway』を「使ったことがある」人は全体の半数ほどでしたが、「使ったことがない」と回答した人にその理由を尋ねた結果、存在そのものを知らない人はその半数、つまり全回答館の4分の1となりました。4分の3は MAPPS Gateway を認知していますので、現状では横断検索サービスを積極的に活用する場面がないと考えられます。



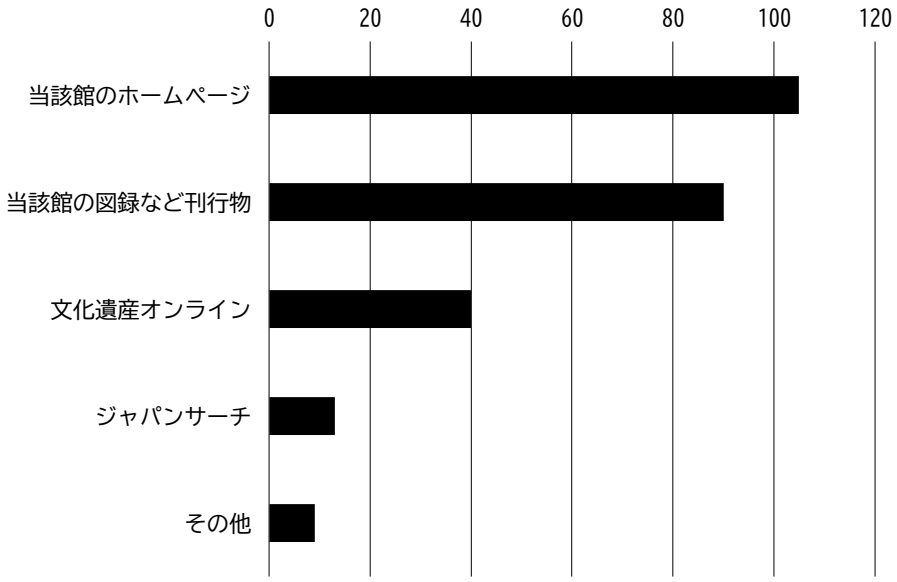
こうしたサービスが真に実務に役立つようになれば、「知っているけれど今は使用していない」という多数派層も動き始めるはずですが、問題は「彼らがどのような機能が求めているか」に他なりません。これについては、設問 10 で俯瞰することができます。

設問9. 他館資料の検索方法

他館の資料を調べるときには、「MAPPS Gateway」以外にどのような手段をご利用でしょうか？（複数回答可）

- □ 当該館のホームページ
- □ 当該館の図録など刊行物
- □ 文化遺産オンライン
- □ ジャパンサーチ
- □ その他（　　）

【回答】9



【解説】

企画展にあたって他館の所蔵資料を調査するケースは頻繁にあると思われますが、この用途で『MAPPS Gateway』を利用する人は現状ではまだ少ないことがわかりました。では、他館の資料情報は、どのように入手しているのでしょうか。

参考資料に使っているのは、やはり「当該館のホームページ」という回答が多数。では、そこが「当該館」であることはどうやって知るのでしょうか。少なくとも「この館が所蔵しているのではないか」という予測を付けられるだけの知見が必要ですので、担当学芸員個人の力に依存しているものと考えるしかありません。回答では2番目に多い「当該館の図録などの刊行物」にも同じことが言えます。

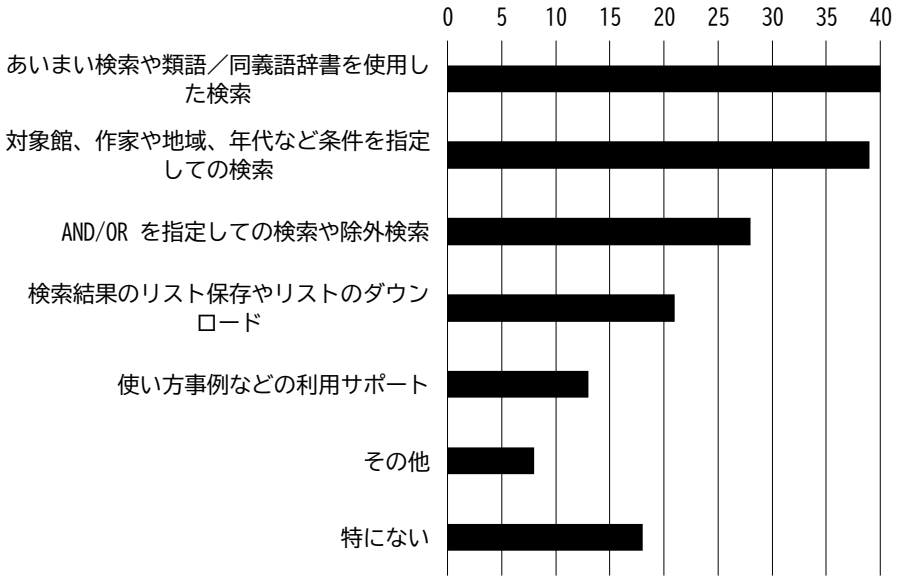
ここで注目したいのは、MAPPS Gateway はおろか『文化遺産オンライン』や『ジャパンサーチ』など多数の館の資料情報にアクセスできる大規模 Web サービスも、回答数で大きく後れを取っていることです。やはり広報・宣伝の問題ですが、あたりをつけながらホームページを巡回する作業は効率的とは言えませんので、一気に検索をかけられる環境が欲しいところ。学芸員が自己の仕事において日常的に「デジタルライフ的な恩恵」を受けるには、もう少し時間がかかりそうです。

設問10.「MAPPS Gateway」への要望

「MAPPS Gateway」に求める機能改善はどのようなものでしょうか？（複数回答可）

- □ あいまい検索や類語／同義語辞書を使用した検索
- □ 対象館、作家や地域、年代など条件を指定しての検索
- □ AND/OR を指定しての検索や除外検索
- □ 検索結果のリスト保存やリストのダウンロード
- □ 使い方事例などの利用サポート
- □ その他（　　）
- □ 特にない

【回答】10



【解説】

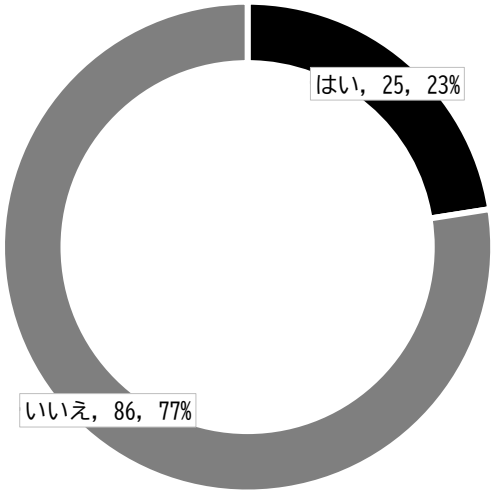
『MAPPS Gateway』は、現在のところフリーワード検索で利用する仕様となっていますが、別の検索方法を求める声が想像以上に寄せられました。複数館のデータを対象とする横断検索では、項目に使用する用語や表記の揺れなどに正確性を求めにくくなるため、「特定のデータを絞り込む機能」や「候補をもれなく探し当てる機能」の精度の確保は、意外に高難度。今後の大きな課題のひとつとなっています。

設問11. IIIF 認知度

デジタルアーカイブに収録されている画像等を相互運用かつアクセス可能とするための国際的な枠組みであるIIIF（International Image Interoperability Framework）とはどういうものかご存知でしょうか？

- □ はい
- □ いいえ

【回答】11



【解説】

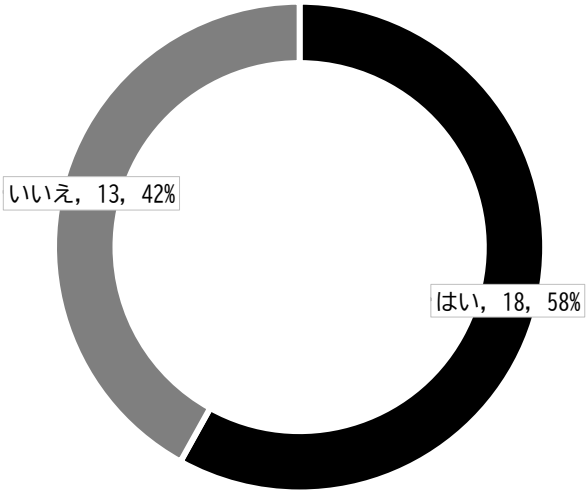
画像へのアクセスを標準化して相互的な運用環境を確保できる「IIIF」の認知度は約 23%、やはり4分の1水準に留まっています。ここで思い出したいのが、アンケートに回答した館のうち、収蔵品データベースを公開している館が3分の2を占めていたこと。全国平均とも言うべき先の『社会教育調査』では公開館が約 12%でしたので、本アンケートの回答館は「ミュージアムの中でもデジタルの情報発信に積極的な層」と解釈しましたが、それでも2割を超えるのがやっとであるわけです。したがって、ミュージアム業界全体での認知度は「極めて低い」と言わざるを得ません。

設問12. IIIF 対応の意向有無

設問 11 で「はい」とご回答の方にお尋ねします。貴館でも、IIIF による画像情報の公開を実施したいとお考えですか？

- □ はい
- □ いいえ

【回答】12



【解説】

全体として認知度が高くない「IIIF」ですが、興味深いことに、その存在を知っている層の約6割は「IIIF を利用した画像データ公開を実施したい」と回答しています。つまり、仕組みや効果を知れば、実際に活用に乗り出してみたいと思うようになるものと考えられるわけです。このことから、IIIF をミュージアムに普及するカギは、一も二もなく「まずはその存在を知らしめること」にあると断じてよいでしょう。

設問13. インターネットを活用した情報発信に関する意見

インターネットを介したミュージアムの情報発信について、もしもご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

【回答】13

課題・ニーズ	コメント
情報発信（あり方）	より多くの方に、館と資料について知ってもらいたい。
	実物資料、作品を直接見る際や、また理解を進めるための参考となる情報について、積極的に発信できたらよいと考えている。あくまでも実物は実物として実見する場所としてのミュージアム。それを補助するツールの一つとして、ネットを通じた情報発信と考えている。
	これまでの集客第一で行われていたような発信については、再考すべきで、社会にたいして「館の使命」とは何か？を問いかけながら、発信についても考えねばならないと思っています。
	新型コロナウイルスにより、企業や大学等ではテレワークのほかZOOMなどのソフトを使ってのテレビ会議や授業が行われています。これまで博物館では、学校教育との連携といえば、学芸員が直接出向く「出前授業」という方法が主流でした。これからは学校にタブレットなどの情報機器が普及するにつれて、ネットを使ってより簡単に学芸員が授業に参加することができ、先生と子どもたちと画面と通して会話しながら学べる、連携の新たな形が進む可能性があると思われます。

	基本的な情報（展覧会の開催日時・館の場所・今年度のライナップなど）は何時でもサーチできるネットが当たり前になってきており、欠かせないものになってきていると感じます。工夫によって様々な仕掛けもできるでしょう。しかし、あくまでも博物館美術館は本物（現物）を主体とし、インターネットで提供できる情報は、本物を補完し、そこにたどり着くまでの端緒となるものではないかと考えます。次の段階としては、ネットの情報が展示作品（資料）の一部、もしくは展覧会構成の一部になることではないかと考えます（Miraikan の Geo-cosmos とか）。その先はまだいろいろな意味で模索中ではないでしょうか。
情報発信（新技術）	IIIF による画像情報の公開については IIIF についてより知識を深めるとともに、自館の Pc 環境や画像の取り扱い方法等を検討する必要がある。
	作品画像や各種資料については世界的な潮流としてオープンデータ化が加速すると思われ、より高精細な画像や容量の大きな動画データ、図録などの資料データなどを IIIF など国際基準にも準拠する形での発信に SAAS が対応できることを期待する。
	世界の有名美術館を中心に、Web サービス「Google Arts & Culture」を利用した資料・作品公開がなされており、これまでに見たどのサービスよりも『デジタルミュージアム』を実現したものであると感じています。できることなら参加してみたいと思うのですが、情報が少ないため、共有できることがあれば教えてほしいです。
	世界中で大ブームとなっている「あつまれ　どうぶつの森」の中のマイデザイン機能に参加できるコード変換を米国メトロポリタン美術館や三菱一号館美術館が提供しているというニュースに面白さを感じています。I.B.MUSEUM SaaS でもできたらいいのになあと少し期待しています。
	コロナの影響で実施できなかった展覧会があるのですが、展示予定だった資料をインスタグラムで紹介する取り組みを始めました。広告用予算がほとんどない当館にとっては、無料で使える SNS への期待は強くなっていくと思います。
権利処理	いざインターネットで情報発信しようとなると著作権使用申請から始めねばならず、迅速な行動ができない。
	当館の場合、所蔵作品の大多数が著作権に保護されており、現行法での画像公開などが難しい状況です。意図的に著作権保護対象外の画像にダウングレードできるフィルターなどあったら便利かなと！
人員不足	人員が少ないところだと、通常業務に加えて休館中の業務もせねばならず、なかなかインターネットコンテンツまで手が回らない。
	なかなか手がまわりませんが、今年度の優先事項として取り組みたいと思います。
	もはやスマホの人間生活への浸透は普遍化しているにもかかわらず、博物館に ICT 関連の職員を専任で置いていないため、常に有志職員が片手間で情報発信している状態を改善しないといけません。ただ、市役所の人員削減計画に逆行することでもあり、人員増は容易でありません。もし緊急で補助金などをとれたとしても、ハードを整備するだけでうまく活用しきれないことが予想され、かえって重荷になるおそれもあります。この状況を是正するためのヒントを今少し頂戴できればありがたいと思っております。

IT 環境	インターネットを介したミュージアムの情報発信については、今年度からより注力して行こうという矢先のこの事態でした。全員在宅勤務になりコンテンツ制作をすることは可能な状況にあったのですが、いかんせんリモートでの更新が所属組織のセキュリティ上許されないこと、肝心の素材の持ち出しができないことなど複数の制約により結局実現できませんでした。
予算不足	コロナウイルス感染症拡大を契機に今後ミュージアムの必要不可欠な主要事業の一つとなるものであり、最新技術の活用も含め積極的に展開していきたい。ただし、費用の問題は大きなネックになり、MAPPS Gateway など既存のプラットフォームを最大限活用できる仕組みが構築されることを希望する。
システム機能	データの末端で、関連資料が合わせて表示されるといいと思います。また、当館の所蔵品は野外彫刻なので、データの末端で Google Map が表示できると嬉しいです。（いつか導入されると良いのですが･･･要望まで･･･）
他館の取り組み	IBmuseum の機能をより活用した、資料情報や画像の公開を検討したいと考えている。具体的な事例等について、いろいろと調べていきたい。
	ジャパンサーチとの連携、IIIF 対応など、他のシステムやアプリケーションとの連携についての機能強化や事例の紹介をいただけるとありがたいです。
	他館の方と情報交換する場がほしい。
	たまに頂く冊子はとても参考になり、回覧をしています。どうしても情報がながれて行ってしまうのでメールマガジンや自分達で閲覧しに行くのが難しい状態にあります。
	他館の更新の状況などを見ていて、インターネット環境の制約をどのようにクリアされているのか、気になりました。

4. まとめ

(1) 母集団の特徴

今回のアンケート調査は、広くミュージアム全般に対して実施したのではなく、< I.B.MUSEUM SaaS >の導入館に対して行いました。したがって、アンケートの結果を総括するには、テーマである「ミュージアムの情報発信」という観点における二つの母集団の性格の違いを認識しておかなければなりません。

それをよく表しているのが、設問4の回答結果です。文部科学省『社会教育調査』の対象施設は「ミュージアム全般」と考えることができますが、同調査内で「情報提供方法」として「デジタルアーカイブ」を挙げた館は全体の約 12%に留まっています。これに対して、今回の回答館の中で収蔵品データベースを公開しているミュージアムは約 66%に達しました。つまり、アンケート回答館は、ミュージアム全体の中でも収蔵品情報の発信やインターネットの活用に積極的な館であるということになります。もちろん、残る3分の1の館はさまざまな理由で収蔵品情報を公開していませんが、設問5の通り「積極的に公開しないことを選択している」という館は少なく、何らかの事情があって公開に至っていないケースがほとんどであることが分かります。したがって、少なくとも姿勢や意識としては、インターネットを介した情報発信に積極的な層と言ってよいでしょう。

こうした層に対する情報発信に関連したアンケートですから、その結果をもって博物館業界全体の傾向と捉えることはできません。その代わり、「インターネットの活用に積極的な館の目には、この質問はどう映ったのか」という分析は可能になります。それを意識して、回答の集計結果を振り返ってみましょう。

(2) 集計結果の総括

前述の通り、回答館の約9割がホームページによる情報発信を、約7割が何らかの SNS サービスを活用しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館期間中に実施したアンケートであるにも関わらず、発信内容は収蔵品情報を抑える形で展覧会やイベント情報が上位となりました。これは、ミュージアムが自館のホームページを告知や広報のチャネルとして位置付けていることが理由として考えられます。

この点については、少し議論の余地がありそうです。と言うのも、欧米のミュージアムでは、コレクションだけでなく開館以来の展覧会アーカイブを蓄積・公開するなど、館の活動に対する理解を深めてもらう手段としてホームページを活用するケースも増えているのです。実際に館の社会的役割のアピールの成功につなげているケースもありますので、デジタルの情報発信チャネルとしての活用法については、もう少し幅を広げて考えてもよいのかも知れません。

また、収蔵品データベースを公開している館は、回答館の3分の2に及びます。ひと昔前に比べると大きな進歩と言えますが、逆に公開していない館にその理由を尋ねたところ、公開の準備に割く時間や人員の問題、権利処理の問題など、「公開したくてもできない」という回答がほとんどを占めました。「そこまで手が回らない」館の実情がうかがえますが、これは自由記述で意見をいただいた最終設問を見るとさらに切迫した様子が伝わってきます。

さて、今回のアンケートは、国の分野横断型統合ポータルであるところの『ジャパンサーチ』の正式公開が迫る時期に実施しました。これを受けて、全国の博物館の収蔵品情報を横断的に検索するニーズの高まりについて確認するために、< I.B.MUSEUM SaaS >が提供するサービスのひとつである『MAPPS Gateway』についての質問を設けました。ところが、MAPPS Gateway を利用・閲覧したことがある回答者は概ね半数程度と、お世辞にも浸透しているとは

言い難い結果となりました。

多くのミュージアムでは、企画展の実施や調査活動など他館の収蔵品に関する情報が必要な場面が頻繁にあるはず。では、その際にどのような手段で情報を得ているのか…という設問に対しては、当該館のホームページや刊行物といった「昔ながらの方法」が圧倒的多数を占めることがわかりました。つまり、ミュージアムが他館の収蔵品情報の入手チャネルとしては、現在運営されている横断検索サービスは実用的でないというという現状が垣間見えました。MAPPS Gateway も含めて、こちらはサービス運営者の今後の課題と言えるでしょう。

もうひとつ、「IIIF（International Image Interoperability Framework）」の利活用についても、まず認知の徹底が課題であることが分かりました。IIIF は、デジタルアーカイブに収録されている画像を中心とするデジタル化資料を相互的にアクセス可能とするための国際的な枠組みで、日本では大学図書館を中心に広がりを見せています。しかしながら、欧米ではすでにミュージアムでも採用例が増えているのに対し、日本国内のミュージアムでは事例がほぼ皆無という状況です。

まだ真新しいとは言え、国内でまったく動きがないのは、なぜなのか。その理由を探るために設けた設問では、予感が的中する形で、4分の3が「そもそも存在を知らない」という結果となりました。単純に認知不足ということになりますが、前述の通り「ミュージアムの中ではデジタルの情報発信に積極的な層」の回答ですので、ミュージアム全体の認知度の低さは深刻なレベルの達しているであろうことが容易に想像できます。

ただし、もちろん光明もあります。「知っている」と回答した館では、自館でもトライしてみたいという声が多数派を占めたのです。加えて、最後の自由記述式の設問に対する回答でも、< I.B.MUSEUM SaaS >に IIIF の機能を搭載して欲しいという要望の声が寄せられるなど、仕組みや効果を知りさえすれば採用すべきと考える館は少なくないのではないかと思われます。オープンな画像の利活用の実現に貢献する IIIF は、ライブラリやミュージアムの画像配信形式として国際的にも急速に普及するさなかですので、日本もぜひ早めに取り組みを開始しておきたいものです。

(3) 「新しいミュージアムIT」の萌芽

最後に、ミュージアムのデジタル活用が今後どうなっていくかについて、私見を交えつつ探ってみたいと思います。

< I.B.MUSEUM SaaS >の導入館は年々増加中ですが、それと歩調を合わせるように収蔵品データベースの公開が進んできました。特に、新型コロナウイルス禍の中ではインターネットを介したコミュニケーション法のひとつとしてクローズアップされましたが、着手していない館が否定的というわけではありません。事情により公開できないところがほとんどで、資金やマンパワーの課題がクリアできればすぐに対応できる意欲を持つ館は決して少なくないものと思われます。

「With コロナ時代」「新しい生活様式」にまつわる議論が進む昨今、ミュージアムでも在り方そのものを見直す動きが少しずつ芽ばえています。自粛期間中に SNS でバズった『おうちミュージアム』を先頭に、デジタル／バーチャルでのサービス提供を試みる動きが活発化。その性格上、これまではリアル世界での来館者を重視する傾向が強かったミュージアムも、情報提供を補完する手段としての IT 活用に再注目する機会となりました。特別な予算を必要とせず、すぐに始めることができる SNS のアカウント開設が目立ちましたが、緊急事態宣言の発令前後に各館で見られた「デジタル対応」の動きは、新型コロナ禍以後も推進路線を引き継ぐことになりそうです。

これまで、博物館業界は、IT 時代への対応の遅れが指摘され続けてきました。新しいことを始めるには費用対効果を事前に検討するのが常ですが、ミュージアムのデジタル活用を語る上で必ず障害となる「予算」と「人員」の壁につ

いても、厳しい財政事情の中では否定的に見られがちで、始めたくても身動きが取れないという状況が長く続いてきたのです。今回のアンケート結果でも改めて証明された形ですが、皮肉にも今般の新型コロナウイルス感染拡大がミュージアムにデジタル化を促す契機ともなっているわけです。

「ニューノーマル」の波は、博物館活動にも変化をもたらしています。先のおうちミュージアムのムーブメントとその反響、その後の SNS での交流拡大といった一連の流れが、これまでどう頑張っても証明できなかった「デジタル対応の成果」を目に見える形で実証する形となりました。効果が確実視されるようになれば、投資判断も変わります。インターネット上の昨今の動きは、ミュージアム界隈にも「デジタルに投資してみよう」という機運が高まってくるかもしれない…と感じていましたが、今回のアンケート調査の結果を取りまとめる中では、それを数字と肉声で実感するに至りました。

とは言え、多額の予算を要する企画、大掛かりな人員体制が求められる仕組みは、いきなり導入できるものではありません。現場への負荷を抑えることを前提に、まずは SNS のようにスモールスタートができて、それなりに効果を期待できる施策へと発展させるのが王道的でしょうか。その後、館の特性に合わせながら、少しずつ幅を広げていく…というスタイルであれば、多くの館がチャレンジできるはず。現在は、そんな土壌が整いつつある段階なのかも知れません。

もうひとつ、印象的だったのが自由記述のアンケート結果です。「他館の事例」を求める声が多くの館から集まったのは、何かに挑戦したいという意欲の高まりを如実に表しています。各館がそれぞれ小さなトライアルに踏み出し、成功の足跡を事例情報として業界全体で共有されれば、それを参考に新たなチャレンジを構想する館が増えていくはず。スモールチャレンジが等比級数的に広がっていけば、ミュージアムのデジタル活用も、もう一段ギアを上げて進展していくことになるはずです。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、わたしたちは大きな逆境に立つことになりました。しかし、それと同時に、新たな視野と発想も生まれつつある…というのが、今回のアンケート結果を取りまとめての実感です。依然として厳しい現実もありますが、その先には大きなステップアップの入り口が待っているのではないか。皆様からいただいた回答がそんな未来を指し示すのを見て、小さくない高揚感を覚えた調査となりました。

各種調査データ

(1) アンケート集計

設問	回答（選択肢）	回答数
インターネット上の情報発信には、どのようなチャネルをご利用ですか？（複数回答可）	自館ホームページ	102
	Twitter	63
	Facebook	74
	インスタグラム	31
	ブログ	9
	スマートフォンのアプリ	8
	その他	21
緊急事態宣言の発令などの影響で休館するミュージアムが増えていますが、これを受けて、インターネットを介しての情報発信が活発化しています。貴館では、今年に入って新たに始めた情報発信はありますか？（以前から利用しているチャネルは除きます。複数回答可）	Twitter	7
	Facebook	3
	インスタグラム	5
	ブログ	1
	その他	17
	特にない	85
インターネットではどのようなコンテンツを発信していますか？（複数回答可）	収蔵品（コレクション）情報	86
	展覧会情報	102
	イベント情報	98
	館内の様子を撮影した動画	39
	お勧めのコレクションの静止画、動画	38
	館に関連する人物や作品制作に関する静止画、動画	25
	クイズなどエンタテインメント性の高いコンテンツ	13
	その他	25
	特にない	1
貴館では、I.B.MUSEUM SaaS の機能を利用して、資料（作品）データのインターネット上で公開されていますか？	はい	73
	いいえ	38
設問４．で「いいえ」とご回答の方にお尋ねします。資料（作品）データをインターネット上で公開しないことについて、何か特定の理由はありますか？（複数回答可）	公開できるデータが整備出来ていない	35
	著作権の処理に対応できない	10
	公開情報の不正取得、不正利用などが懸念される	7
	公開の効果が期待できない	2
	その他	6
	特にない	1

I.B.MUSEUM SaaS では、公開情報の横断検索サービス「MAPPS Gateway」を運営していますが、サイトを閲覧したことはありますか？	はい	56
	いいえ	55
設問６．で「はい」とご回答の方にお尋ねします。「MAPPS Gateway」をどのような目的で利用されましたか？（複数回答可）	自館の資料に関連するキーワードで検索してみた	46
	借用資料を探すために検索してみた	13
	その他	7
設問６．で「いいえ」とご回答の方にお尋ねします。「MAPPS Gateway」をご存じでしたか？	知っていたが使ったことがない	28
	知らなかった	26
他館の資料を調べるときには、「MAPPS Gateway」以外にどのような手段をご利用でしょうか？（複数回答可）	当該館のホームページ	105
	当該館の図録など刊行物	90
	文化遺産オンライン	40
	ジャパンサーチ	13
	その他	9
「MAPPS Gateway」に求める機能改善はどのようなものでしょうか？（複数回答可）	あいまい検索や類語／同義語辞書を使用した検索	40
	対象館、作家や地域、年代など条件を指定しての検索	39
	AND/OR を指定しての検索や除外検索	28
	検索結果のリスト保存やリストのダウンロード	21
	使い方事例などの利用サポート	13
	その他	8
	特にない	18
デジタルアーカイブに収録されている画像等を相互運用かつアクセス可能とするための国際的な枠組みであるIIIF（International Image Interoperability Framework)とはどういうものかご存知でしょうか？	はい	25
	いいえ	86

(2) ミュージアムの Twitter 調査（参考）

休館中の情報発信として、各館が共通のハッシュタグをつけて発信する事例が数多く見られました。それらについて調査し、一覧表にまとめてみました。条件は以下の通りです。

- 「エア博物館」「おうちミュージアム」「エア美術館」いずれかのハッシュタグが付いている
- 2020/6/30 時点で「いいね」が 100 件以上のもの
- ミュージアム公式アカウントであること
- ツイート属性に関してはリスト作成者の主観による
- 水族館・動物園・植物園などの動態展示館は除く

なお、特に目を惹いた記事は早稲田システム開発のホームページにて紹介しております。

http://www.waseda.co.jp/blog/airmuseum
http://www.waseda.co.jp/blog/airmuseum2

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/3/2	十日町市立里山科学館	○					○	0:45							○						https://twitter.com/KyororoMuseum/status/1234336060101906433?s=20
2020/3/4	東洋文庫ミュージアム	○			○	1				○			○						○		https://twitter.com/toyobunko_m/status/1235023759783776256?s=20
2020/3/6	ポーラ文化研究所	○					○	0:13		○							○	○			https://twitter.com/POLA_bunken/status/1235877151519305728?s=20
2020/3/6	ポーラ文化研究所	○			○	3				○							○	○			https://twitter.com/POLA_bunken/status/1235875312354783232?s=20
2020/3/7	すみだ北斎美術館	○	○		○	1				○					○		○				https://twitter.com/HokusaiMuseum/status/1236283486350110728?s=20
2020/3/10	沖縄県立博物館・美術館	○			○	1				○					○						https://twitter.com/OkiMu_chan/status/1237236338295861249?s=20

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/3/11	日本科学未来館	○					○	0:59							○					○	https://twitter.com/miraikan/status/1237513791916646400?s=20
2020/3/12	ちひろ美術館		○		○	1				○						○	○				https://twitter.com/ChihiroMuseum/status/1238042049473056770?s=20
2020/3/14	ちひろ美術館	○	○		○	3				○							○				https://twitter.com/ChihiroMuseum/status/1238706423988535296?s=20
2020/3/18	東京国立近代美術館	○		○	○	1				○											https://twitter.com/MOMAT60th/status/1240201443346440193?s=20
2020/3/20	高知城歴史博物館	○					○	2:09		○	○					○	○	○			https://twitter.com/kochi_johaku/status/1240887539256311808?s=20
2020/3/21	横浜ユーラシア文化館	○			○	2				○						○	○				https://twitter.com/YokohamaEurAsia/status/1241268160407334912?s=20
2020/3/25	東京国立近代美術館		○		○	3				○							○			○	https://twitter.com/MOMAT60th/status/1242587152329965569?s=20
2020/3/26	東京国立近代美術館		○		○	4				○							○			○	https://twitter.com/MOMAT60th/status/1242949537028886534?s=20
2020/3/28	大阪市立科学館	○					○	0:37							○						https://twitter.com/gakugei_osm/status/1243817335560916992?s=20
2020/3/31	刀剣博物館	○		○	○	2				○										○	https://twitter.com/NBTHK_MUSEUM/status/1244911513023811584?s=20
2020/4/1	徳川美術館	○	○		○	1					○							○			https://twitter.com/tokubi_nagoya/status/1245239838632108035?s=20

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/4/1	刀剣博物館	○		○	○	4				○										○	https://twitter.com/NBTHK_MUSEUM/status/1245146326334992384?s=20
2020/4/3	御船町恐竜博物館	○		○			○	0:42	○							○			○		https://twitter.com/MifuneMuseum/status/1246000471912800259?s=20
2020/4/4	泉屋博古館		○	○	○	3				○						○	○				https://twitter.com/SenOkuKyoto/status/1246284982374371329?s=20
2020/4/7	刀剣博物館	○		○	○	2							○			○		○			https://twitter.com/NBTHK_MUSEUM/status/1247414087148916736?s=20
2020/4/7	国立科学博物館		○				○	1:15		○	○						○				https://twitter.com/museum_kahaku/status/1247466303624859650?s=20
2020/4/8	刀剣博物館	○		○			○	0:23							○			○			https://twitter.com/NBTHK_MUSEUM/status/1247733433796685824?s=20
2020/4/14	國學院大學博物館			○	○	3				○					○						https://twitter.com/Kokugakuin_Muse/status/1249904480218312704?s=20
2020/4/14	石と賢治のミュージアム			○	○	1				○							○				https://twitter.com/ishitokenji/status/1249903194399862784?s=20
2020/4/15	古代オリエント博物館	○			○	1				○					○						https://twitter.com/aom_tokyo/status/1250247343749791746?s=20
2020/4/15	ちひろ美術館	○			○	1				○							○				https://twitter.com/ChihiroMuseum/status/1250227339251900416?s=20
2020/4/17	古代オリエント博物館	○			○	1								○	○						https://twitter.com/aom_tokyo/status/1251063359367024640?s=20

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/4/19	明治村	○		○			○	1:51		○					○		○				https://twitter.com/meijimura_pr/status/1251800134293188610?s=20
2020/4/20	大阪市立科学館	○					○	0:58							○						https://twitter.com/gakugei_osm/status/1252191148375851008?s=20
2020/4/20	明治村	○		○			○	1:00		○					○		○				https://twitter.com/meijimura_pr/status/1252132010320990208?s=20
2020/4/23	古代オリエント博物館	○			○	1								○	○						https://twitter.com/aom_tokyo/status/1253224483877384192?s=20
2020/4/23	国立科学博物館			○			○	0:22	○	○					○		○				https://twitter.com/museum_kahaku/status/1253279878616506374?s=20
2020/4/24	石川県立歴史博物館			○	○	4							○						○		https://twitter.com/ishireki/status/1253475768446364417?s=20
2020/4/26	福井市自然史博物館	○		○	○	2			○				○			○			○		https://twitter.com/fukuishizenshi/status/1254317669253181440?s=20
2020/4/29	すみだ北斎美術館	○							○		○										https://twitter.com/HokusaiMuseum/status/1255413599738232836?s=20
2020/4/30	神奈川県立歴史博物館	○							○			○									https://twitter.com/kanagawa_museum/status/1255752605566857216?s=20
2020/4/30	日本サッカーミュージアム	○			○	1				○								○			https://twitter.com/jfa_museum/status/1255790089780604928?s=20
2020/4/30	日本サッカーミュージアム	○			○	1				○								○			https://twitter.com/jfa_museum/status/1252890173655793664?s=20

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/4/30	奈良国立博物館			○	○	2			○	○					○	○					https://twitter.com/narahaku_PR/status/1255759864627773440?s=20
2020/5/3	横浜ユーラシア文化館	○			○	1				○					○		○				https://twitter.com/YokohamaEurAsia/status/1256753352228003840?s=20
2020/5/7	航空科学博物館			○			○	2:14		○					○		○				https://twitter.com/aeromuseum3416/status/1258248298164518912?s=20
2020/5/8	刀剣博物館	○									○							○			https://twitter.com/NBTHK_MUSEUM/status/1258649108291567616?s=20
2020/5/8	明治村	○					○	1:42		○					○		○				https://twitter.com/meijimura_pr/status/1258684985868861441?s=20
2020/5/9	ポーラ美術館			○	○	4				○			○				○		○		https://twitter.com/polamuseumofart/status/1259005511048937473?s=20
2020/5/13	明治村	○					○	1:29		○							○				https://twitter.com/meijimura_pr/status/1260452843535900673?s=20
2020/5/15	日本サッカーミュージアム	○			○	2				○								○		○	https://twitter.com/jfa_museum/status/1261213203867897859?s=20
2020/5/16	もりおか歴史文化館	○			○	3				○	○					○					https://twitter.com/morireki1/status/1261492476042375169?s=20
2020/5/19	國學院大學博物館			○	○	2							○				○		○		https://twitter.com/Kokugakuin_Muse/status/1262583244878299136?s=20
2020/5/23	岐阜県博物館			○	○	1					○							○			https://twitter.com/gifukenpaku/status/1264015637581459457?s=20

基本情報		ハッシュタグ			付随情報					Tweet 内容					Tweet 属性						ソース
日付	館名	#エア博物館	#エア美術館	#おうちミュージアム	画像あり	画像枚数	動画あり	動画時間	リンクあり	所蔵品紹介	イベント告知・報告	グッズ・図録紹介	DIY	研究報告	トリビア・珍しさ	丁寧な解説	見た目・音の良さ	ファン向け	子ども向け	タイムリー	URL
2020/5/30	甲子園歴史館			○	○	2				○								○			https://twitter.com/koshien_museum/status/1266589171117785090?s=20
2020/6/16	ポーラ文化研究所			○	○	4			○	○							○	○			https://twitter.com/POLA_bunken/status/1272740850745741314?s=20
2020/6/17	ポーラ文化研究所		○	○	○	4			○	○							○	○			https://twitter.com/POLA_bunken/status/1273104909517365252?s=20
2020/6/20	尾道市立美術館		○		○	2				○							○				https://twitter.com/bijutsu1/status/1274113505183618857?s=20
2020/6/23	國學院大學博物館			○	○	2				○			○			○	○		○		https://twitter.com/Kokugakuin_Muse/status/1275270754628583425?s=20
2020/6/23	山種美術館		○		○	2				○							○			○	https://twitter.com/yamatanemuseum/status/1275262301516386304?s=20
2020/6/23	山種美術館		○		○	2				○						○	○			○	https://twitter.com/yamatanemuseum/status/1275336539313025024?s=20
2020/6/26	京都国立博物館			○			○	7:27	○	○	○				○				○		https://twitter.com/TORARINOFFICIAL/status/1276289401539170305?s=20

Museum Media Labo.